

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑦特に配慮を必要とする子どもの理解

- ◆ 特に配慮が必要な児童のうち、貧困状態にある子育て家庭の児童について学びました。貧困状態であることの社会的損失がとても大きく、連鎖をどう断ち切るか考えていく必要があると思いました。また、問題が見つげづらいことから、どう早期に発見していくかが課題になると思いました。子ども・保護者に関わる専門機関として適切な支援につなげられるように制度等を学び、活用していきたいです。
- ◆ 近年、子ども食堂や制服リユースの報道は増えたと思います。地域の見守りによって運営できる反面、子ども食堂では食材高騰等の運営する厳しさも耳にします。そんな中で秋田県ではひとり親への支援制度がきめ細かくあることを知りました。見守る目を支えようとする人の輪の中で放課後児童支援員として自覚をもち、繰り返される日常の中での思い込みから離れて、子どもの小さな変化を見過ごさないように見方を工夫して子どもと接したいと思います。
- ◆ 児童虐待と貧困はとても関わりが深いと感じました。厳しい貧困からネグレクトにつながることもあると感じました。親の貧困から十分な養育ができなかったり、適切な食事の提供ができなくなってしまうなど、子どもの将来に大きく影響していくことになります。こうしたことから、多様な関係者とうまく連携し、日々の子どもたちとのコミュニケーションを大切に、多方面から支援できるようにしていきたいです。
- ◆ 社会で普通とされる生活が難しい「相対的貧困」と言われる家庭が8人に1人という高い割合で存在している現状とこのような家庭は周囲から見えないことにより、支援も困難だということを学びました。各々の家庭にどんな事情があっても子どもの将来が閉ざされることがあってはなりません。そのために今の自分ができることを考えてみようと思いました。
- ◆ 秋田県の子どもの貧困対策事業はいくつかあり、支援員が直接関わることができるのは、放課後児童クラブで子どもたちの適切な居場所を確保することになります。貧困の連鎖は負のスパイラルですが、子どもたちが楽しく穏やかに放課後生活を送り、心身の健全な成長を手助けできればと思います。それが秋田県の未来への投資になると気付くことができました。